

今のところ手に入っている以下の国公立大学の今年の前期試験英語の問題の解答および問題の分析が大まかに終わりました。これを踏まえて、今年の国公立大英語の全体的な傾向および来年度の予想、対策を大まかに書きます。

#### [今回の分析に反映している大学一覧]

東大、京大、阪大、北大、東北大、名古屋大、九州大、広大、千葉大、横浜国大、岐阜大、筑波大、静岡大、岡山大、神戸大、東京医科大、名古屋工大、大阪市立大、大阪府立大、横浜市立大、浜松医科大、一橋大、東京工大、熊本大、東京都立大(首都大学東京)

#### [傾向と分析]

全体的な傾向として、“読んでから書いたり、読んでから要点をまとめたり”する問題が増えて来ている。特に会話問題が増え、中身もただ会話の穴埋めをさせたり、会話の内容に合うものとして正しい選択肢を選ばせるだけではなく、会話自体を要約させるものがでてきている。例えば今年、東北大では会話の要点を予想したりして 50-70 語の英語で書くことが今年新しく出題された。広大以上の難関大で会話長文が出るのは、広大、北大、東北大だけだが、全体傾向からして今後数年のうちに会話長文が増えてくる可能性がある。広大以上を目指す人は対策をしてほしい。

また今年はいくつかの長文問題の長文量が多い。あくまで私の個人的な感触だが、去年よりも更に長文が長文化している気がする。難関大に限らずどの国公立大も時間内に読んで処理するにはかなり練習が必要で、早めに二次対策を始めた方がいい。一方、長文に出てくる語彙は昨年並である。もちろん大学により語彙難易度の差はあるが、鉄壁もしくは英検準一の単語を網羅できていれば充分対応できる。長文は長くなっているがその分、細かいところを問うよりもざっと読んで要点を掴むことを要求してくる大学が増えた。今年はいくつかの大学などでその力が顕著に問われた。ただ精度力はやはり大学に入って必要なので、今年も一定量どの大学も出題されており、これは今後ずっと続くと予想される。

また今年の傾向として文法問題が出てきている。センター試験がなくなりその代わりに二次試験で出され始めているが、模試や私立大学ほど重箱の隅をつついて問題ではなく、基本的なものなのでさほど対策は必要ない。東大、岐阜大、静岡大に加え、今年はいくつかの大学と千葉大も文法が加わっていた。ちなみに昔からある東大の文法間違い訂正問題は今年はいくつかの大学で易化傾向。

続いて自由英作文についてだが、長文や中文を読んでから、それを踏まえて自由英作文を書く問題が増えた。従来この形をずっととって来たのは九州大学だが、それに加えて、神戸、東京医科歯科、筑波、岡山、九州、名古屋なども今年はいくつかの出題。

またトピックについては、従来、横浜国立大や山大でよくでていたメールや手紙を書く問題が今年はいくつかの大学で出題された。1、2年の英語表現の授業をきちんと受けて、かつ GTEC 対策がきちんとできていた人は難なく解けたはずだが、難しい生活では普段使わないような文を英訳させたり和訳させたりしてきた京大の対策にはいらないとして日常重視の英語を捨ててきた受験生には厳しかったように思える。大学受験英語は傾向に関わらず何でも進んで勉強することが、急がば回れで、高得点を取るコツだと思う。

さらに自由英作文について、近年、背景知識や考えて発想を出す柔軟性が強く求められてきている。今年難しかったのは以下の通り。

岡山: 動植物を減らしている可能性がある環境問題をあげ、大学生としてできることを 10 行程度書け

筑波: 日本における食の廃棄の問題について考えを 100 語程度書きなさい

神戸: 本文中のことわざに関してあなたならどのように解釈しますか? 70 語

九州: 高校時に文理に分かれて勉強することの是非を 100 語程度で

名古屋: 国別若者意識調査の結果が示す表をみて、理由を推測して 80-100 で書く

東大: 私たちは言葉を操っているのか。それとも操られているのか。60-80 語

阪大: キャッシュレス社会の利点、欠点。70 語程度

熊大: 学生の投票率が低い記事を読んで 80 語

自由英作文については新3年生は2年次の英表でたくさん英作文を書いたと思う。これをきちんと見直してほしい。新2年生はこれから1年間、全クラスでどんどん色々なトピックを書いていく。それをきちんと取り組んでほしい。

授業で自由英作文を書くとなると、ネタが出なかつたりして、だんだんダラけてきて、最終的に何がよくわからないことを書く、もしくは周りと雑談したり、途中で内職初めて終わりとなるパターンの人が多いが、ネタが出なくてもなんとか考えて、一回一回を大切に書いてほしい。今年は九大と阪大のトピックについて事前に先生が予想したのが出たので、それを覚えていた3年生はラッキーであった。繰り返すが、授業で突飛押しもない様々なトピックを扱っていくが、先生方は全て考えて予想してやっているのだから、それが大学入試に出るんだ！というつもりで取り組んでほしい。今年、京大に合格した先輩も受験体験記で”ふざけるんじゃなく、おっ、この子いい視点をもってるなと思わせるようなことを書く”と言っている。

最後に舟入生が気になる広島大についてだが、問題の形は去年通りで変わっていない。中身がやや易化しているので平均点は高くなるだろう。その分、来年難化する可能性があるので広大を受ける人は、会話問題と自由英作文の対策を教科担当の先生に聞いて早めに始めてほしい。以上。

舟入生がよく受ける私立大と残りの国公立大も問題が手に入り次第、分析に入る予定です。また皆さんの中に、”ぜひこの大学の分析を”というのがあれば遠慮なく言ってください。また上にあげたのはあくまで国公立大英語の総括評価なので、各大学についての詳しい分析が欲しい方は英語科柏原まで。

英語科 柏原